

3 地域づくりの実施事例

元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業で実施事例として、以下に示す代表的なものを紹介します。各地域における今後のまちづくりの参考にして下さい。

羽州・奥州街道地区（桑折町・国見町）：県北建設事務所（計画期間：H16～）
「奥州街道・羽州街道追分」復元により、さらに地域づくり活動が活性化

郡山市中田地区（郡山市）：県中建設事務所（計画期間：H17～H20）
「柳橋歌舞伎伝承館」へのアクセス路として河川堤防を快適で安全な歩行空間として整備

南湖公園周辺地区（白河市）：県南建設事務所（計画期間：H16～）
日本初土民共楽の南湖公園を良好な状態で後世へ継承～古から現代へ、そして未来へ～

三島町早戸地区（三島町）：会津若松建設事務所（計画期間：H16～H18）
地元住民、三島町との役割分担による早戸温泉地区再生

喜多方中心市街地地区（喜多方市）：喜多方建設事務所（計画期間：H19～）
“くらにわ”が地域の賑わいをつなぎ、蔵の街なみにゆとりとふくらみを創出

伊南川沿川地区（南会津町・只見町）：南会津建設事務所（計画期間：H17～）
川とのふれあいの場を提供～川と“親しむ”“遊ぶ”“学ぶ”～

高瀬川渓谷地区（浪江町・葛尾村）：相双建設事務所（計画期間：H16～）
渓谷美と安全に安心して楽しくふれあう～高瀬川渓谷を歩こう～

常磐湯本地区（いわき市）：いわき建設事務所（計画期間：H16～）
温泉街活性化のため、温泉を活用した交流広場“鶴のあし湯”を整備

「奥州街道・羽州街道追分」復元により、さらに地域づくり活動が活性化

羽州・奥州街道地区

桑折町、国見町

県北建設事務所
計画期間: H16 ~

地域づくりの方針

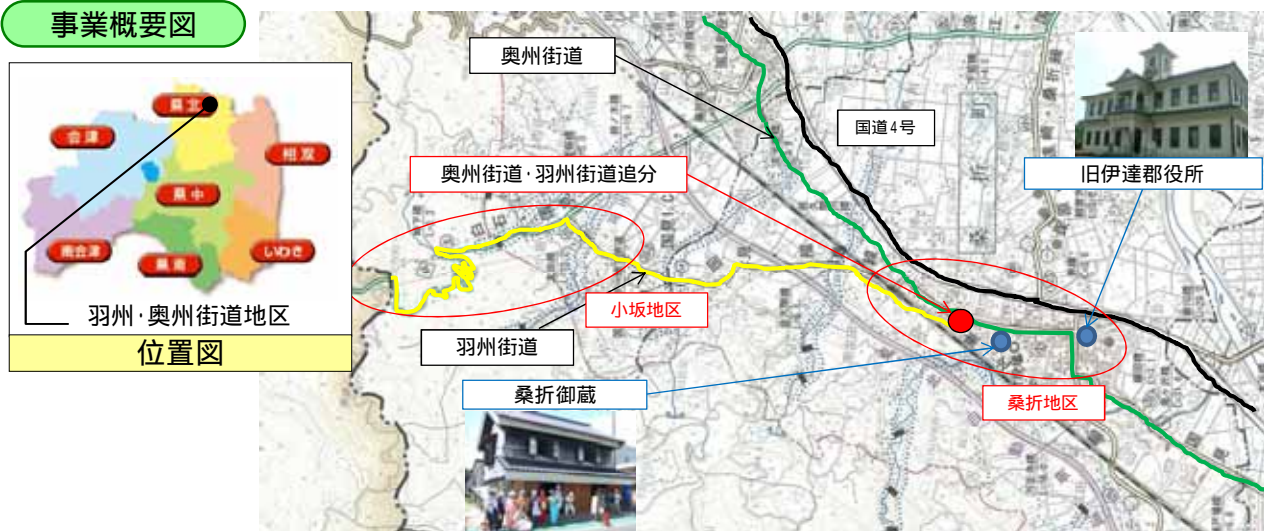
- ・桑折地区
歴史的な地域資源等を活用し、**歩いて楽しめる地域づくり**の推進
- ・小坂地区
羽州街道沿線地域資源を活用し、**魅力ある地域づくり**の推進

主な事業内容

街道をとおした交流や中心市街地の活性化を図るため、
“奥州街道・羽州街道追分”
を
交流広場として江戸時代のまま、
忠実に復元



事業概要図



地域の現状

桑折町・国見町の両町は、伊達家に関する多くの歴史的資源、半田山などの美しい景観や小坂峠から見た信達平野の風景などの自然資源を数多く有しています。

このため、両町の宝、誇りとして町民が抱いている歴史的資源や自然環境をはじめとする町特有の資源・素材を今後も町民が誇りに思うように認識を持ち続ける環境づくりの形成や新たな魅力を創造して町民が魅力を感じられる地域づくりの必要があります。

地域づくりのあゆみ

平成16年	<ul style="list-style-type: none"> ・桑折地区：奥州・羽州街道まちづくり懇談会設立。地域資源調査、ワークショップ開催。 ・小坂地区：地域資源調査。
平成17年	<ul style="list-style-type: none"> ・桑折地区：懇談会開催、桑折宿・羽州街道マップ作成。 ・小坂地区：小坂宿・小坂峠マップ作成。
平成18年	<ul style="list-style-type: none"> ・桑折地区 奥州街道・羽州街道追分整備。桑折地区歩いて楽しめる地域づくり懇談会設立。食の発見（山形県高畠町へ視察）。のれん設置（県地域づくり総合支援事業）。 ・小坂地区 小坂宿探訪会の開催。こさかまちづくりの会設立。小坂宿に花文字設置（県地域づくり総合支援事業）。
平成19年	<ul style="list-style-type: none"> ・桑折地区：桑折地区歩いて楽しめる地域づくり懇談会を3部会（桑折学・賑わい創出・町並み）に分け検討、街道を活かしたまちづくりフォーラム開催。“奥州街道・羽州街道追分”が国土交通省の手づくり郷土賞受賞。桑折御蔵オープン（県商店街活性化事業）。 ・小坂地区 小坂峠産坂階段設置（県地域づくり総合支援事業）。
平成20年	<ul style="list-style-type: none"> ・桑折地区 内閣府「地方の元気再生事業」選定。三元車復活プロジェクト桑折サイクルフェスティバル開催（県地域づくり総合支援事業）国土交通省「まちナビ」選定、羽州街道サミット開催。 ・小坂地区 こさかまちづくりの会による現地調査実施。

地域づくりを進めてきた中での課題及び解決策

(地元住民)

懇談会を組織する上で、会員の人選を既存団体の長を選ぶというのが一般的な手法であるが、会を重ねるたびに参加人数が減ってくるようになります。そうならないために、会の中心になる人をなるべく一般町民から選ぶようにし、会の代表に女性の畠腹さん（写真）になっていただいたことによって会が大きく変化しました。



代表 畠腹桂子さん

(県担当者)

人との関わりが地域づくりにおいては大事であり、はじめは誰がキーマンなのか、誰と話を進めれば良いか、等が分からないまま仕事を進めなければならぬ非常に苦労しました。3年目で人との関わりがようやく出来てきたところですが、3年程度で異動になる現状にあっては、地元住民との関わりをどのように次の担当者に引き継ぐのかが地域づくりを進める上での課題だと思います。

地域づくりには、財源をいかに確保するかは大きな課題だと思います。地元が自ら財源を確保できれば理想ですが、実際は困難であるため、行政が各種助成制度の情報提供（場合によっては申請書作成の手伝い）を行うなど、地元負担が極力少なくなるような支援をできれば良いと思います。

元気づくりの立役者たち

地域の人



旧伊達郡役所



三元車



ハートレーク(半田沼)



事業の効果

桑折御蔵オープン

桑折町の商工会が、使われていなかった明治時代の蔵を“桑折御蔵”としてリニューアルし、町の女性団体連絡協議会を中心にアンテナショップとして運営され、いつももてなしの心で迎えてくれます。

桑折御蔵



懇談会により実現した地元主体の地域づくり活動

桑折宿軽トラ市



毎月第4日曜日に開催
地元で採れた新鮮な野菜を販売

カフェ図書



会員である東北大学仙台都市デザイン研究会による発案で実施

雛めぐり



H21.2.17～3.3の15日間で桑折御蔵に約1,700人が来訪しました。

広域交流連携



広域交流連携

ホテルを活用したまちづくりをすすめるため、宮城県七ヶ宿、山形県高畠町と連携。

実施した感想

(県担当者)

奥州街道・羽州街道追分（分岐点）復元が大きな効果を発揮。その地域の歴史や文化に根ざした整備はもとより、地元求められる施設整備が重要であると感じました。

(地区住民)

内閣府の地域の元気再生事業に採択されまして現在進行していますが、これも今までの元気ふくしま事業があったからこそ採択になったものと思います。

地域の課題・今後の展望

桑折地区：

“奥州街道・羽州街道追分”の復元、“桑折御蔵”のオープン等、地域づくり活動が着実に進められてきているが、さらなる魅力向上を図り、商工会等と連携しながら、「歩いて楽しむ賑わいのある」地域づくりに取り組んでいきます。

小坂地区：

桑折町、宮城県七ヶ宿町、山形県高畠町等と羽州街道をとおした交流連携を行っていきます。

整備内容及び利用状況

奥州街道・羽州街道追分の復元(桑折地区)



施工前



施工後

利用状況

追分を含む羽州街道をとおした地域づくり活動が評価され、「手づくり郷土賞」を受賞しました。

(利用者の声)

奥州街道・羽州街道追分“備え付けノート”より

- ・街道筋のパフレットが思いがけず手に入りとてもうれしいです。
- ・歴史を残すことは大切なことだと思います。これからも維持して行って下さい。応援しております。
- ・座る場所があって、いい場所です。

管理状況

平成18年12月4日に県と桑折町とで維持管理に関する基本協定を締結し、日常の維持管理は、地元住民によって行われています。

沿道景観整備(小坂地区)



施工前



施工後

沿道景観を阻害するものを改善し、歩いても走っても楽しめる道路空間としました。

関係機関

福島県県北建設事務所 企画調査課
桑折町 地域整備課
桑折地区歩いて楽しめる地域づくり懇談会 (事務局桑折町地域整備課)

TEL : 024 - 521 - 7642

TEL : 024 - 582 - 2127

「柳橋歌舞伎伝承館」へのアクセス路として 河川堤防を快適で安全な歩行空間として整備

郡山市中田地区

郡山市

県中建設事務所
計画期間：H17～H20

地域づくりの方針

豊かな自然、伝統芸能、伝統工芸を活用しつつ、地域住民が誇りを持って、“住んでよい里山”と実感できる地域づくり

「ゆっくり（スローライフ）」、「回す（循環）」、「つなぐ（ネットワーク）」をキーワードとして、**交流と伝承を重視した“ふるさと”が体感できる地域づくり**

主な事業内容

県道小野郡山線への歩道整備が困難であったため、県道と平行している

黒石川の堤防を遊歩道

として整備しました。



事業概要図



地域の現状

雑木林や田圃、集落が一体となった里山の環境を多く残す当地には、不動桜や紅枝垂地蔵桜等の著名な桜とともに、古くから息づく柳橋歌舞伎などの伝統芸能、海草根和紙などの伝統工芸といった地域に根ざした文化があります。

“あぶくまらしさ”ともいうべきこれらの伝統芸能、伝統工芸を地域全体で保存・継承し、世代間交流を図り、人と土地との密接なつながりを立体的に表現する農村景観保持のため、地区住民が一丸となって、地域づくりに取り組んでいく必要があります。

地域づくりのあゆみ

- | | |
|-------|--|
| 平成16年 | <ul style="list-style-type: none">・「地域資源現地調査及び懇談会」を開催。（地域住民と地域資源の再発見を行った。）・地域資源を活用したまちづくりについて、「地域づくり懇談会」で意見交換を行った。 |
| 平成17年 | <ul style="list-style-type: none">・地域づくりとして、「伝統文化」と「食」の2つの視点で講演形式のセミナーを開催。・地域資源の掘り起こし、地域づくりの実践について地域づくり勉強会を実施。 |
| 平成18年 | <ul style="list-style-type: none">・中田町柳橋地内の黒石川への遊歩道整備について意見交換会を開催し、皆の同意を得られた。・遊歩道の名前が「黒石川遊歩道」に決定。・「黒石川及び黒石夢歩道の美化活動に関する管理協定」を柳橋町内会と県中建設事務所が締結。 |
| 平成19年 | <ul style="list-style-type: none">・黒石川及び黒石夢歩道の第一回目の清掃活動を約50名の参加者により実施。・「中田お宝マップ」で紹介した地域資源を巡る「中田バスツアー」を実施。（中田地域振興協議会）・中田町柳橋地区の地域振興を検討する組織として「柳橋地域振興検討会」が組織。 |
| 平成20年 | <ul style="list-style-type: none">・黒石夢歩道に隣接した土地に、地域自らの発意によって公園を整備することを計画。・「柳橋歌舞伎」を盛り上げるため、歌舞伎の紙芝居を作成。先進地視察。 |

地域づくりを進めてきた中での課題及び解決策

（県担当者）

最も重要視したのは、県が目指す地域づくりの真の理念を地元理解していただくことでした。中田地区内を通る県道は急勾配や急カーブの箇所が多く、以前から改築・改良への要望が根強く、当初は、県が支援する地域づくりが「県道の改築にどのように結び付くのか」という期待を常に持たれた形でのお付き合いでした。

地元で懇談や討議をすると必ずと言ってよいほど「県道」の話が出ます。その地域に住んでいる方のことを考えれば、お気持ちは理解はできるのですが、単にインフラ整備を目標に地域づくり活動を促すことは本意でなかったし、「ないものさがし」をやめて、「中田にある素晴らしいものを見直そう」と、事あるごとによく訴えました。

実施した感想

（県担当者）

本地区は、地域づくりに取り組む意欲は、自他共に認める県内の先進地で、現在の地域の姿にとどまることなく絶えず発展しようとする気持ちがあり、何か一つのことを成し遂げようとするとき、みんなの勢いで盛り上げられる気風がありとてもすばらしく思います。このまま地域づくり活動を進めていって欲しいと思います。

（柳橋町内会長 古川一郎さん）

県道は、人家連担地区で歩道がなかったため、今回の遊歩道整備は、通学者や健康増進の散歩に非常に喜ばれています。また、ベンチが所々にもうけてあるので、地域コミュニティの創出に一役買っています。

50回以上続く中田町町民駅伝時のコースに、夢歩道が今年から組み入れられました。ランナーはもちろん応援者からも非常に好評を得ました。

維持管理については、町内会役員・老人会・子供育成会・消防団・ボランティアなど多くの団体に協力してもらっています。

元気ふくしま事業で作った夢歩道の維持管理などを通して、地域への愛着が増してきました。活動を通して他団体交流も活発になりました。

事業の効果

地域資源の磨き上げと愛着の醸成

黒石川の遊歩道では、柳橋町内会が美化活動及び緑化活動に関する県との管理協定に基づき、花壇づくりや清掃など、ボランティア活動を活発に実施しています。

また、地元御館小の児童が、総合学習の一環として「遊歩道に素敵な名前を付けようプロジェクト」を立ち上げ、郷土史の学習や地域へのアンケートを踏まえ「黒石夢歩道」と名付けるなど、地元が一体となって「地域を磨く」活動に取り組んでいます。

小学生によるボランティア活動



柳橋歌舞伎保存会による上演



伝統芸能の伝承

- ・毎年9月第3日曜日柳橋歌舞伎伝承館「黒石荘」にて上演
- ・柳橋歌舞伎定期講演会：
整備前(H18.9.17) 650人
整備後(H19.9.16) 1,200人
- ・遊歩道利用者： 80人/日

地場産品振興による地域活性化と交流人口の拡大

これまで町内のイベントであった「中田ふるさと祭り」を、「おもてなし」や「情報発信」の実践イベントとして取り組み、案内チラシや報道機関を通じてPRに努めた結果、例年の2倍以上となる約1,200名が訪れました。現在は、地域が中心となり、中田町生産物直売所を設置しました。

中田町生産物直売所



元気づくりの立役者たち

不動桜



紅枝垂れ地蔵桜



柳橋歌舞伎



三匹獅子舞



地域の課題・今後の展望

(柳橋町内会長古川一郎さん)

地域の展望としては、今後の高齢化社会の到来に向けて、明るい老後が送れるような“まち”をつかっていきたいため、介護施設や人に優しい町、グランドゴルフ場などのレクリエーション施設などを作り上げていきたいと考えております。

地域住民により、『みんなの舞の里公園づくり事業』を展開中です。

地域に住む人が住みやすい“まち”であるために、封建的な地域のしきたりの簡素化や若い世代が住みやすいと思える町の仕組み作りを進めていきます。



柳橋・舞の里公園計画イメージ図

整備内容及び利用状況

遊歩道整備 L=1,100m W=2.0 ~ 2.5m



県道小野郡山線の状況

県道小野郡山線への歩道整備が困難であったため、県道と平行している黒石川の堤防を遊歩道として整備しました。



黒石川の堤防を遊歩道として整備

利用状況

- ・ 地域の人々の散策や通学、歌舞伎公演の際には多くの人出でにぎわっている。
- ・ 沿道清掃作業を通して、地域住民のコミュニティの醸成に寄与している。
- ・ 遊歩道利用者： 80人/日

(利用者の声)

車が通行しないので安全に歩ける。夜間は暗くて歩きにくいので照明の数を増やしてほしい。児童の通学路としても安全で、老人の日常の歩行にも最適である。特に災害時には大変助かると思う。柳橋地区の道路は狭いので、これから老人の方々が散歩するのに大変良かったと思う。

管理状況

柳橋町内会と管理協定を締結。定期的に美化活動を実施しています。

サイン整備



道路標識板に添加

スムーズに目的地へ着けるようにするために、サインを整備しました。



紅枝垂れ地蔵桜

関係機関

福島県県中建設事務所 企画調査課
郡山市中田行政センター
中田地域振興協議会
柳橋町内会

TEL : 024 - 935 - 1449
TEL : 024 - 973 - 2111

日本初士民共楽の南湖公園を良好な状態で 後世へ継承 ~ 古から現代へ、そして未来へ ~

南湖公園周辺地区

白河市

県南建設事務所
計画期間: H16 ~

地域づくりの方針

士民の差別なく共に楽しむ士民共楽の日本最初の公園である南湖公園を民・学・官が協働により良好な状態で保全し後世に継承する

主な事業内容

- ・ 民・学・官協働により、**水質浄化活動**
- ・ 風化により劣化した千世の堤護岸を**整備した当時の状態に復元**



事業概要図



千世の堤 護岸復元工 L=160m

地域の現状

南湖公園は、約200年前に白河藩主松平定信公が、「士民共楽」の理念の基に築造した日本最初の公園と言われています。しかし、近年の急速な都市化の進行により南湖を取り巻く環境の悪化が表面化し、その改善が強く望まれています。

H14年度に市民と行政などが一体となって南湖公園及びその周辺地域を含めた保全・利活用計画（案）策定を目的とした「南湖公園ワークショップ」を立ち上げ、水質・景観・動植物・交通・観光イベント及び市民活動といった多岐にわたる課題に取り組んでいます。

地域づくりのあゆみ

平成16年	<ul style="list-style-type: none">・ワークショップで、社会実験、水質調査を実施。・民、学、官協働による南湖の総合的な水質調査を開始。・南湖の池干し清掃ボランティアの実施。（年1回実施）・平成16年度南湖図画コンテストを開催。
平成17年	<ul style="list-style-type: none">・炭素繊維ネットを設置して浄化実験を開始。（市民ボランティア）・『歩いて楽しむ南湖公園散策マップ』を作成。
平成18年	<ul style="list-style-type: none">・南湖に関する大学との共同研究（日大・福大）を開始。・一般市民を対象とした南湖の植物観察会の開催。（福大の協力）・南湖の保全・利活用に関する「市民提案書」を白河市長に提出。・市民の手作りによる『南湖祭』（第1回）を3月3日に開催。
平成19年	<ul style="list-style-type: none">・一般市民を対象とした南湖のいきもの（トンボ、魚類）の観察会の開催。（専門家の協力）・南湖への理解を深めるための検討会（勉強会）の開催。
平成20年	<ul style="list-style-type: none">・市民の手作りによる『南湖祭』（第2回）の開催。・南湖への理解を深めるための検討会（勉強会）の開催。

地域づくりを進めてきた中での課題及び解決策

平成14年に38年ぶりに南湖の水を抜き、池干しを実施しました。始まるといういろいろな問題に直面しました。わずか50人足らずの清掃活動で湖内から10トンのゴミが収集されたり、市民からは貴重な水生植物のコウホネが寒さに弱いと責められたり、心無い釣り人に夜中に堰を開けられ大量の魚が流出し、土嚢袋100袋分の魚を回収し焼却するなど、難題や批判の声が噴出してその対応に追われる毎日でしたが、その都度丁寧に説明し理解をしていただくことにより、現在はほとんど批判等の声はなくなり、毎年1回市民のみなさまの協力のもと池干し清掃が実施できるようになりました。

実施した感想

（地元住民：小椋栄一さん）

各種市民団体などの力を合わせれば、大きなイベントもできるということがわかりました。

南湖公園を生かすも殺すも私たち市民の意識と行動にかかっています。自然から学び、感動的な体験をした人は自然を大切にしようになるといわれています。このことを意識し一人ひとりが、何ができるかを考えて行動していくことが大事だと思います。

（その他の地元住民）

ワークショップに初めて参加しましたが、十人十色の考え方や意見があって、大変なためになりました。ただし、自分の考えを押しつけ、他の人の意見を聞かない人には、もっと注意すべきだと思います。

（市担当者）

住民主体の地域づくりを実現させるためには、住民一人ひとりが地域づくりの主役であることを認識し、地域の諸問題を考え、行動のできる体制づくりが必要。そのためには、住民の活動を後押しする仕組みが必要であり、軌道にのるまでは地域の取り組みをサポートする行政側の支援が不可欠です。



小椋栄一さん

事業の効果

白河市長へ提案書提出



提案書を白河市長へ提出

南湖公園ワークショップで話し合われたことを「南湖公園の保全・利活用に関する提案書」として市民の目線からとりまとめ、平成19年2月23日に白河市長へ提出しました。

南湖池干し清掃ボランティア



池干し清掃

400人以上の市民ボランティアにより毎年1回行われています。

市民の手作りによる『南湖祭』



手作りイベント『南湖祭』

地元商店の方々や市民グループなどが協力し合って手作りの『南湖祭』を開催。2回目の『南湖祭』を平成20年11月に開催しました。

出展作品



南湖図画コンテスト

子供のころから南湖に関心を持っていただくために平成16年度から開催しています。

地域の課題・今後の展望

市民グループ主体で開催した「南湖祭」は予算ゼロにもかかわらず1,000人以上の来訪者があり、南湖清掃ボランティアには地元住民だけでなく県外や企業ボランティアの参加で400人を超える人々が集まりました。こうした活動は、地域資源価値の再認識と情報発信・PRに大いにつながりました。

古の姿に復活するまでには相当な年月がかかると思いますが、今後も住民自らが活動の成果を実感していくことを大切に、マップやパンフレットの作成、「産・官・学・民」の連携を図ることで、多くの人が参加、議論し、交流・連携の地域づくりを目指して、普及啓発等の地道な地域づくりを行っていきます。

整備内容及び利用状況

千世の堤護岸復元工 L=160m



施工前



施工後

地元の“白河石”を使い
復元しました。

市民との動植物観察会



市民との植物観察会



市民とのトンボ観察会

水質調査



水質調査に参加した市民グループ

南湖勉強会



南湖の水質に関する勉強会

関係機関

福島県 県南建設事務所 企画調査課
南湖ワークショップ(事務局 県南建設事務所 企画調査課)
白河市 都市計画課
社川沿岸土地改良区(水管理)
南湖共栄会
みなもん自然環境塾
NPO法人 カルチャーネットワーク

TEL : 0248 - 23 - 1617

TEL : 0248 - 22 - 1111(代表)

TEL : 0248 - 32 - 3324

TEL : 0248 - 23 - 3015

TEL : 0248 - 22 - 6853

TEL : 0248 - 22 - 5271

地元住民、三島町との役割分担による 早戸温泉地区再生

三島町早戸地区

三島町

会津若松建設事務所
計画期間: H16 ~ H18

地域づくりの方針

1200年以上の歴史がある早戸温泉つるの湯と“絶景”只見川を最大限活用した地域づくり

主な事業内容

- ・町が**温泉棟を整備**
- ・早戸温泉つるの湯企業が**屋形船を購入**
- ・元気ふくしまで**船着き場を兼ねた護岸を整備**

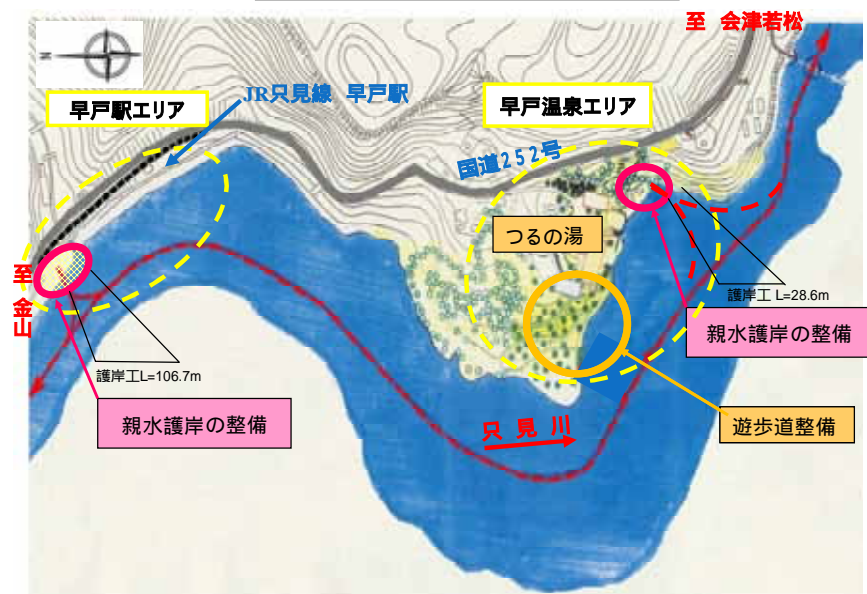


事業概要図



三島町早戸地区
位置図

早戸地区整備平面図



地域の現状

町の人口のピークは、只見川電源開発や国鉄只見線工事の盛んな昭和25年の約7,700人であったが、平成15年には約2,300人と3分の1以下に減少しました。過疎化と同時に高齢人口の割合も42%と高くなっていました。

こうした中、町では地域の資源である早戸温泉を活用した地域づくりを展開しています。

地域づくりのあゆみ

平成16年

- ・町による新しい温泉施設棟の建設。
- ・地域懇談会を開催し、地域づくりの将来の方向性を話し合う中で、風光明媚な只見川の見どころを巡る遊覧船の運航を行うこととした。

平成17年

- ・早戸温泉とJR早戸駅付近の2箇所に船着場を兼ねる護岸工を整備。
- ・地域懇談会では、遊覧船からの見処を船に乗りながら調査。

平成18年

- ・屋形船「つるの湯丸」が就航。船は県の補助事業である地域ビジネス創出支援事業を活用し、早戸温泉つるの湯企業組合が購入。
- ・「只見川山峡21景」の案内看板を整備。
- ・地域懇談会では、只見川の見処に名前をつけパンフレットを作成。

平成19年

- ・地区住民が遊歩道を整備。併せて植樹を実施。

平成20年

- ・対岸の金山町三更（みふけ）集落との連携により渡し舟「霧幻峡の渡し」を復活。

地域づくりを進めてきた中での課題及び解決策

- ・地域の方にとっては初めてのワークショップ開催だったことから、わかりやすく参加しやすい雰囲気を作るため、1開催のテーマを絞り、資料は活字よりもイメージ図等の絵柄を多用するなど工夫しました。
- ・役割分担と効果的な事業の組み合わせなどの連携が屋形船運航実現の鍵でした。

実施した感想

(県担当者)

事務所の企画調査の担当だけでなく、土木事務所や三島町の職員の方と事業当初から一緒に参加してもらうことができ、その後の整備等に共通認識を持つことができました。

(町担当者)

懇談会の運営や、関係機関の連絡調整に苦労しました。

(地区住民)

この事業がなければ「山峡下り」は実現できなかったと思います。

元気づくりの立役者たち

川霧とつるの湯周辺の桜



冬のつるの湯周辺



JR只見線第三鉄橋



冬のJR只見線と只見川



事業の効果

地元の新たな取り組み (遊歩道の整備)

平成19年度には、早戸温泉つるの湯周辺の良好な景観を楽しんでもらうことを目的に、只見川左岸に、早戸温泉地区住民が、ウッドチップを敷いた遊歩道(L=300.0m、W=1.0m)を整備するとともに、広葉樹の苗木の植樹を併せて実施しました。

植樹の様様



整備された遊歩道



食事処の営業

つるの湯温泉企業組合が、屋外に食事施設「ラーメンハウス」を整備し、温泉利用者の利便性を向上させました。

渡し舟の復活

平成20年度には、県の地域づくり総合支援事業を活用し、対岸の金山町三更(みふけ)地区との間で45年ぶりに渡し舟を復活させました。この渡し舟は古くから地域住民の足として利用されてきましたが、道路網が整備されて役割を終えていたものです。

今回は「霧幻峡の渡し」として復活しましたが、次年度から通年での運行を計画しています。

霧幻峡の渡し



只見川山峡21景(船上からの見どころ)

地域の課題・今後の展望

毎年、実施している早戸温泉を核としたイベントやボランティアの美化運動は、観光資源「温泉」と文化財「神々の道」をうまく活用し、連携した滞在型観光の促進を目標としたものです。また、地区の高齢化を念頭においた、楽しめる事業活動、小さくても地元の人々が参加できる活動を進めてきました。

しかし、屋形船の収支は、町の補助金を得ていて、単独では赤字となっています(H18、H19実績)。長く継続していくためには黒字化が必要で、利用者5,000人超が目標になります。

今後は、周辺地区の資源にも光をあて、他の地域との文化や生活のつながりを再発見することで、交流と連携を図りながら、地域づくり活動の輪を広げていくことを目指す必要があります。

整備内容及び利用状況



船着場整備前



施工後



つるの湯船着場



JR早戸駅近くの船着場とつるの湯丸

利用状況

屋形船（つるの湯丸）の利用者数
 H18.7～H19.6 3,470人
 H19.7～H20.6 4,097人（18%増）
 つるの湯利用者数
 H17.7～H18.6 54,268人
 H18.7～H19.6 63,066人
 H19.7～H20.6 54,571人



船中での懇談会

管理状況

平成19年6月7日、早戸温泉つるの湯企業組合、町、県の3者で、県が整備した護岸工等の維持管理に関する管理協定を締結。定期的に清掃、除草を行っています。



昔のつるの湯



整備したつるの湯

関係機関

福島県会津若松建設事務所 企画調査課
 福島県宮下土木事務所 業務課
 三島町役場
 早戸温泉つるの湯企業組合

TEL : 0242 - 29 - 5455
 TEL : 0241 - 52 - 2444
 TEL : 0241 - 48 - 5511
 TEL : 0241 - 52 - 3324